

神戸大学麻酔科専門研修プログラム

・ 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能のように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

・ 専門研修プログラムの概要と特徴

専門研修基幹施設である神戸大学医学部附属病院は、専門研修連携施設群と連携したうえで専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

さらに麻酔科専門医の資格取得のみならず、本研修プログラムの参加者には以下の5つを目標とし、世界に通ずる麻酔医として活躍できるよう教育、研修を提供する。

- ・ 安全な周術期をあらゆる患者さんに提供すること
- ・ 周術期管理の中でリーダーシップを発揮できるようになること
- ・ 日常臨床の中で、自ら判断し根拠をもって問題解決できるようになること
- ・ つねにリサーチマインドを有した医師になること
- ・ 自らの手で研究し、**Clinical Question** を解決する能力を持つこと

• 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の4年間を前半・後半のそれぞれ2年に分け、どちらかの2年間で専門研修基幹施設である神戸大学医学部附属病院と、特殊症例の多い連携施設（神戸労災病院、西神戸医療センター、北播磨医療センター、神鋼病院、加古川中央市民病院、兵庫県立こども病院、姫路循環器病センター）で研修を行い、残りの2年間は希望により、神戸大学医学部附属病院もしくはその他の専門研修連携施設にて研修を行う。
- 4年間のうち最短で1年間は責任基幹施設である神戸大学医学部附属病院で研修を行うこととする。また専門研修連携施設Bにおける研修は2年を超えないものとする。
- プログラムに所属する全ての専攻医が、研修期間4年間のうちの2年間で専門研修基幹施設、および専門研修連携施設において、専門研修に必要とされる特殊麻酔症例数を達成できるようローテーションを構築する。残り2年間の研修は、すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが、それぞれの専攻医のキャリアプランに合わせた調整が可能である。
- 専門研修基幹施設（神戸大学医学部附属病院）での研修には、集中治療およびペインクリニック領域での研修も含む。

研修実施計画例

	コース A	コース B	コース C
専攻医 1年目	大学病院	専門研修連携施設 (特殊症例の多い)	専門研修連携施設 (大学病院での研修も可)
専攻医 2年目	専門研修連携施設 (特殊症例の多い)	大学病院	
専攻医 3年目	専門研修連携施設 (大学病院での研修も可)		大学病院 ＋ 専門研修連携施設 (特殊症例の多い)
専攻医 4年目			

週間予定表

神戸大学医学部附属病院麻酔科ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	休み	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	手術室	休み	手術室	休み	休み
当直			当直				

• **研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数**

本研修プログラム全体における前年度合計麻酔科管理症例数：9193 症例

本研修プログラム全体における総指導医数：19 人

	合計症例数
小児（6歳未満）の麻酔	688 症例
帝王切開術の麻酔	585 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	740 症例
胸部外科手術の麻酔	513 症例
脳神経外科手術の麻酔	348 症例

*研修期間4年間のうち、神戸大学医学部附属病院と特殊症例の多い連携施設（神戸労災病院、西神戸医療センター、北播磨医療センター、神鋼病院、加古川中央市民病院、兵庫県立こども病院、姫路循環器病センター）とで研修する2年間で、特殊症例の必要経験症例数は満たすことが想定されるため、他の連携施設からの症例配分は受けていない。

① **専門研修基幹施設**

神戸大学医学部附属病院（以下、大学病院）

研修プログラム統括責任者：溝渕知司

専門研修指導医：溝渕知司（麻酔，集中治療，ペインクリニック）

高雄由美子（麻酔，ペインクリニック）

出田眞一郎（麻酔，集中治療）

江木盛時（麻酔，集中治療）

佐藤仁昭（麻酔，ペインクリニック）

三住拓誉（麻酔，集中治療）

眞田かなえ（麻酔，ペインクリニック）

小幡典彦（麻酔）

専門医：長江正晴（麻酔）

末原知美（麻酔）

大井まゆ（麻酔）

岡田雅子（麻酔）

中川明美（麻酔）

久保田健太（麻酔）

野村有紀（麻酔）

法華真衣（麻醉）
 巻野将平（麻醉）
 北原淳一郎（麻醉）
 本山泰士（麻醉）

麻醉科認定病院番号：29

麻醉科管理症例 5205 症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻醉	192 症例	192 症例
帝王切開術の麻醉	235 症例	235 症例
心臓血管手術の麻醉 （胸部大動脈手術を含む）	367 症例	367 症例
胸部外科手術の麻醉	245 症例	245 症例
脳神経外科手術の麻醉	188 症例	188 症例

② 専門研修連携施設

神鋼記念病院（連携施設A）

研修実施責任者：上川 恵子

専門研修指導医：上川 恵子

浅石 眞実

宮崎 平祐

専門医：嘉山 邦仁

西山 由紀子

田宮 みゆき

赤嶺 美樹

麻醉科認定病院番号：602

特徴：神戸市中心部の中核病院として専門研修指導医・専門医数も充実しており、一般手術麻醉をはじめ、特に胸部手術・脳神経外科手術の手術麻醉管理を多く研修することが可能である。

麻醉科管理症例 2060 症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻醉	2 症例	0 症例
帝王切開術の麻醉	0 症例	0 症例
心臓血管手術の麻醉 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例	0 症例
胸部外科手術の麻醉	140 症例	80 症例
脳神経外科手術の麻醉	150 症例	50 症例

西神戸医療センター（連携施設B）

研修実施責任者：田中 修

専門研修指導医：田中 修
伊地智 和子
飯島 克博

専門医：藤澤 恭子
廣瀬 徹也

麻酔科認定病院番号：738

特徴：神戸市西地域の地域中核病院として心臓大血管手術以外の手術麻酔管理を研修することができる。神経ブロック症例も豊富に研修できる。また、集中治療部も麻酔科が主体となって管理しているため重症患者管理を経験することができる。

麻酔科管理症例 3384 症例

小児（6歳未満）の麻酔	全症例 34 症例	本プログラム分 25 症例
帝王切開術の麻酔	204 症例	150 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例	0 症例
胸部外科手術の麻酔	200 症例	150 症例
脳神経外科手術の麻酔	76 症例	50 症例

北播磨総合医療センター（連携施設B）

研修実施責任者：山田 秀樹
専門研修指導医：山田 秀樹
武士 昌裕

専門医：丸山 裕子

麻酔科認定病院番号：1642

特徴：北播磨の地域中核病院として、心臓大血管手術をはじめオールラウンドの手術麻酔管理を研修することができる。神経ブロック症例も豊富である。集中治療・ペインクリニックの研修も可能である。

麻酔科管理症例 2302 症例

小児（6歳未満）の麻酔	全症例 52 症例	本プログラム分 30 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	209 症例	50 症例
胸部外科手術の麻酔	59 症例	20 症例
脳神経外科手術の麻酔	131 症例	30 症例

神戸労災病院（連携施設A）

研修実施責任者：入江 潤
専門研修指導医：入江 潤

伊福 弥生
河上 寿和子

専門医：貴志 暢之

麻酔科認定病院番号：143

特徴：神戸市中心部の病院で、心臓大血管手術、側弯症などに対する整形外科脊椎手術が特に多く経験できる。

麻酔科管理症例 1291 症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	4 症例	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	147 症例	73 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0 症例	0 症例

兵庫県立こども病院（連携施設A）

研修実施責任者：香川 哲郎

専門研修指導医：香川哲郎（小児麻酔）

鈴木 毅（小児麻酔）

高辻小枝子（小児麻酔）

大西泰広（小児麻酔）

三浦由紀子（小児麻酔）

池島典之（小児麻酔）

専門医：舟井 優介

末田 彩

森 悠

麻酔科認定病院番号：93

特徴：小児・周産期医療専門病院として、一般的な小児外科症例や各科の小児症例のほか、新生児手術、小児開心術、日帰り手術、血管造影等の検査麻酔、病棟での処置麻酔、緊急帝王切開等、一般病院では扱うことが少ない症例経験が可能。小児がん拠点病院、地域医療支援病院。

週間スケジュール

月曜日から金曜日（毎朝8時30分から8時45分まで）：術前症例検討会

月曜日から金曜日（毎朝7時50分から8時00分まで）：心臓外科術前症例検討会

水曜日（8時00分から8時30分まで）：抄読会

月曜日から金曜日（9時から）：手術室での麻酔及び術前診察・術後回診等

金曜日（16時30分から17時30分）：重症症例検討会

麻酔科管理症例 4418 症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	2358 症例	200 症例
帝王切開術の麻酔	185 症例	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	207 症例	0 症例
胸部外科手術の麻酔	29 症例	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	84 症例	5 症例

加古川中央市民病院（連携施設B）

研修実施責任者：久次米 依子

専門研修指導医：久次米 依子

木ノ下 直央子

木村 靖子

豊嶋 恭子

篠崎 裕美

専門医：柘植 江里香

横尾 知樹

木村 拓也

麻酔科認定病院番号：1825

特徴：兵庫県東播地域の地域中核病院として、特に小児手術、帝王切開をはじめとした産科手術、小児を含む心臓大血管外科手術の手術麻酔管理を研修することができる。神経ブロック症例も豊富に研修できる。

麻酔科管理症例 5023 症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	269 症例	269 症例
帝王切開術の麻酔	325 症例	325 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	297 症例	297 症例
胸部外科手術の麻酔	97 症例	97 症例
脳神経外科手術の麻酔	29 症例	29 症例

独立行政法人国立病院機構神戸医療センター（連携施設A）

研修実施責任者：石川 麻子

専門研修指導医：石川 麻子

石島 麻美子

山川 直子

麻酔科認定病院番号：307

特徴：神戸市西地域の地域中核病院のほか、側弯症に対する脊椎外科手術は全国でも有数の症例数をほこっており、ファイバー挿管をはじめとした特殊気道管理を豊富に研修できる。

麻酔科管理症例 1201 症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0 症例	0 症例
帝王切開術の麻酔	61 症例	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	22 症例	0 症例

市立加西病院（連携施設 B）

研修実施責任者：魚住 亮

専門研修指導医：魚住 亮

林 万亀男

麻酔科認定病院番号：509

特徴：兵庫県北西播磨地域の地域中核病院で、主に一般手術の麻酔研修が可能である。麻酔科管理症例 391 症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	3 症例	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0 症例	0 症例

西脇市立西脇病院（連携施設 A）

研修実施責任者：植木 正明

専門研修指導医：植木 正明

前川 信博

外間 之貴

麻酔科認定病院番号：1390

特徴：北播磨地域の地域中核病院として、特に脳神経外科手術の麻酔管理を豊富に研修することができる。

麻酔科管理症例 1001 症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0 症例	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例	0 症例

心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	0 症例	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	157 症例	0 症例

社会医療法人愛仁会高槻病院 (連携施設 B)

研修実施責任者：中島 正順

専門研修指導医：中島 正順

内藤 嘉之

土居 ゆみ

河合 建

専門医：三宅 隆一郎

麻酔科認定病院番号：829

特徴：大阪北地域の基幹病院として小児から成人までの高度・先進医療を提供している。心臓血管外科手術、小児、産科手術麻酔のオールラウンドな研修が可能である。

麻酔科管理症例 2510 症例

	全症例	本プログラム分
小児 (6 歳未満) の麻酔	315 症例	0 症例
帝王切開術の麻酔	22 症例	0 症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	61 症例	0 症例
胸部外科手術の麻酔	49 症例	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	52 症例	0 症例

社会医療法人千船病院 (連携施設 B)

研修実施責任者：岡本 健志

専門研修指導医：岡本 健志

河野 克彬

専門医：星野 和夫

上北 郁男

麻酔科認定病院番号：770

特徴：大阪西地域の地域中核病院として心臓大血管手術以外の手術麻酔管理を研修することができる。帝王切開をはじめとした産科麻酔を豊富に研修できる。

麻酔科管理症例 2289 症例

	全症例	本プログラム分
小児 (6 歳未満) の麻酔	22 症例	0 症例
帝王切開術の麻酔	428 症例	0 症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	0 症例	0 症例

胸部外科手術の麻酔	10 症例	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	36 症例	0 症例

明石医療センター（連携施設 B）

研修実施責任者：坂本 元

専門医：坂本 元

多田羅 康章

永井 貴子

益田 佳世子

麻酔科認定病院番号：1166

特徴：東播磨地域の地域中核病院として脳神経外科手術以外の手術麻酔管理を研修することができる。神経ブロック症例も豊富に研修できる。また、集中治療部も麻酔科が主体となって管理しているため重症患者管理を経験することができる。

麻酔科管理症例 2654 症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	6 症例	0 症例
帝王切開術の麻酔	225 症例	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	252 症例	0 症例
胸部外科手術の麻酔	132 症例	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0 症例	0 症例

兵庫県立西宮病院（連携施設 A）

研修実施責任者：森 美也子

専門研修指導医：森 美也子

松田 雅子

福家 陽奈

専門医：葉山 裕子

麻酔科認定病院番号：660

特徴：兵庫県東部の地域中核病院として心臓大血管手術以外の手術麻酔管理を研修することができる。神経ブロックも豊富に研修できる。

麻酔科管理症例 2314 症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	11 症例	0 症例
帝王切開術の麻酔	232 症例	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例	0 症例
胸部外科手術の麻酔	8 症例	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	70 症例	0 症例

兵庫県立がんセンター（連携施設A）

研修実施責任者：加藤 洋海

専門研修指導医：加藤 洋海

池垣 淳一

木村 好江

道山 琴美

専門医：波戸 章郎

麻酔科認定病院番号：449

特徴：がん治療に特化した兵庫県の中核病院として、特に胸部外科手術の手術麻酔管理を豊富に研修できる。硬膜外ブロックをはじめとした神経ブロックも豊富に研修できる。集中治療・ペインクリニックの研修も可能である。

麻酔科管理症例 2995 症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0 症例	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例	0 症例
胸部外科手術の麻酔	342 症例	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	18 症例	0 症例

兵庫県立加古川医療センター（連携施設A）

研修実施責任者：千草 壽々子

専門研修指導医：千草 壽々子

高橋 亨子

麻酔科認定病院番号：204

特徴：東播磨地域の地域中核病院。救急救命センターであることから救急手術の麻酔管理も多数経験することができる。

麻酔科管理症例 1692 症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	2 症例	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	1 症例	0 症例
胸部外科手術の麻酔	8 症例	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	43 症例	0 症例

兵庫県立淡路医療センター（連携施設B）

研修実施責任者：渡海 裕文

専門研修指導医：渡海 裕文

専門医：久保田 恵理

繁田 麻里

麻酔科認定病院番号：1529

特徴：地域中核病院としてオールラウンドの手術麻酔管理を研修することができる。
救急患者も多く、救急・集中治療に関わる豊富な経験が可能である。

麻酔科管理症例 2242 症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	42 症例	0 症例
帝王切開術の麻酔	129 症例	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	124 症例	0 症例
胸部外科手術の麻酔	87 症例	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	77 症例	0 症例

公立八鹿病院（連携施設A）

研修実施責任者：富 勝治

専門研修指導医：富 勝治

専門医：坂本 昇太郎

麻酔科認定病院番号：898

特徴：兵庫県北部の地域中核病院として、主に一般手術の麻酔管理を研修することができる。神経ブロック症例も豊富に有し、ペインクリニックの研修も可能である。

麻酔科管理症例 826 症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	5 症例	0 症例
帝王切開術の麻酔	25 症例	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例	0 症例
胸部外科手術の麻酔	1 症例	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0 症例	0 症例

川崎医科大学附属病院（連携施設B）

研修実施責任者：中塚 秀輝

専門研修指導医：中塚 秀輝

戸田 雄一郎

前島 亨一郎

西江 宏行

難波 力

谷野 雅昭

専門医：山本 雅子

麻酔科認定病院番号：77

特徴：大学病院であることから高度専門・先進医療を提供している。多種多彩な症例の麻酔管理を経験できる。また、集中治療やペインクリニック分野においても十分な研修を行うことが可能である。

麻酔科管理症例 4590 症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	313 症例	0 症例
帝王切開術の麻酔	51 症例	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	87 症例	0 症例
胸部外科手術の麻酔	168 症例	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	124 症例	0 症例

高知医療センター（連携施設B）

研修実施責任者：杉本 清治

専門研修指導医：杉本 清治

難波 健利

滝本 恵理

鬼頭 英介

専門医：濱田 暁

徳丸 さやか

高野 洋平

松本 智子

麻酔科認定病院番号：66

特徴：基幹病院として非常に多くの症例数を有し、オールラウンドの手術麻酔管理を研修することができる。がんセンター、循環器病センター、総合周産期母子医療センター、救命救急センターを有している。また、集中治療部も麻酔科が主体となって管理しているため重症患者管理を経験することができる。

麻酔科管理症例 4536 症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	238 症例	0 症例
帝王切開術の麻酔	287 症例	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	276 症例	0 症例
胸部外科手術の麻酔	180 症例	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	154 症例	0 症例

国立がん研究センター中央病院（連携施設B）

研修実施責任者：佐藤 哲文
専門研修指導医：佐藤 哲文
木下 陽子
新井 美奈子
白石 成二

専門医：松三 絢弥
柴田 麻里

麻酔科認定病院番号：43

特徴：東京都中心部に位置し、がん治療・がん研究の拠点病院として、特に胸部外科手術の麻酔管理を研修することができる。硬膜外ブロックをはじめとした神経ブロック症例も豊富に研修できる。集中治療部の研修も可能である。

麻酔科管理症例 4484 症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	284 症例	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例	0 症例
胸部外科手術の麻酔	662 症例	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	130 症例	0 症例

神戸市立医療センター中央市民病院（連携施設B）

研修実施責任者：山崎 和夫

専門研修指導医：山崎 和夫（麻酔、集中治療）

宮脇 郁子（麻酔）

美馬 裕之（麻酔、集中治療）

東別府 直紀（麻酔、集中治療）

下菌 崇宏（麻酔、集中治療）

山下 博（麻酔）

専門医：柚木 一馬（麻酔、集中治療）

徐 舜鶴（麻酔、ペインクリニック）

麻酔科認定病院番号：217

特徴：神戸市民病院機構の基幹病院として高度・先進医療に取り組むとともに救急救命センターとして24時間体制で1から3次まで広範にわたる救急患者に対応している。そのため心大血管手術、臓器移植手術、緊急手術など様々な状況で多種多様な麻酔管理を経験できる。また、集中治療部を麻酔科が主体となって管理しているため大手術後や敗血症性ショック等の重症患者管理を研修することができる。

麻酔科管理症例数 6,146 症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	142 症例	0 症例
帝王切開術の麻酔	308 症例	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	364 症例	0 症例
胸部外科手術の麻酔	381 症例	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	367 症例	0 症例

神戸赤十字病院（連携施設 B）

研修実施責任者：佐牟田 健

専門研修指導医：佐牟田 健

大橋 一郎

専門医：小野 大輔

麻酔科認定病院番号：1059

特徴：成人を中心として、整形外科、消化器外科、婦人科、心臓血管外科、耳鼻科、形成外科手術症例を経験できる。予定手術患者に対しては術前外来を行い、重症症例に関しては術後集中治療室での管理を行うことで術前から術後まで一貫した周術期管理を学ぶことができる。緊急手術としては消化器外科、心臓血管外科が多く、兵庫県立災害医療センターが併設されているため、脳神経外科、整形外科の緊急手術も経験することができる。麻酔科内で毎日カンファレンスと勉強会、抄読会を行い、知識の共有とレベルアップを図っている。

特定機能病院 救命救急センター

週間スケジュール

月曜日から金曜日（毎朝 8 時 00 分から 8 時 15 分まで）：術前症例検討会

月曜日から金曜日（毎朝 8 時 40 分から 9 時 00 分まで）：ICU 症例検討会

火曜日（8 時 15 分から 8 時 40 分まで）：ICU 重症症例勉強会

木曜日（8 時 15 分から 8 時 40 分まで）：抄読会

金曜日（8 時 15 分から 8 時 40 分まで）：統計の勉強会

月曜日から金曜日（9 時から）：手術室での麻酔及び術前診察・術後回診・ICU 診療

麻酔科管理症例数 3209 症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	38 症例	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	161 症例	0 症例

胸部外科手術の麻酔	113 症例	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	112 症例	0 症例

- ・ **募集定員**

10 名

(*募集定員は、4年間の経験必要症例数が賄える人数とする。複数のプログラムに入っている施設は、各々のプログラムに症例数を重複計上しない)

- ・ **専攻医の採用と問い合わせ先**

- ① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに(2016年9月ごろを予定)志望の研修プログラムに応募する。

- ・ **問い合わせ先**

本研修プログラムへの問い合わせは、神戸大学麻酔科専門研修プログラム website、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

神戸大学医学部附属病院 麻酔科 溝渕知司 教授

〒650-0017 兵庫県神戸市中央区楠町 7-5-2

TEL 078-382-6172

FAX 078-382-6189

E-mail anesth@med.kobe-u.ac.jp

Website <http://www.med.kobe-u.ac.jp/anes/index.html>

- ・ **麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について**

- ・ **専門研修で得られる成果 (アウトカム)**

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

・ 専門研修方法

別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

・ 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。さらに状態の悪いASA 3度の患者の周術期管理やASA 1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができることを目指す。

専門研修2～3年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修4年目

1～3年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

・ 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- ・ 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- ・ 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修4年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

・ 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

・ 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

・ 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- ・ 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- ・ 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- ・ 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- ・ 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- ・ 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- ・ 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- ・ 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

・ 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての西神戸医療センター、北播磨医療センター、市立加西病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。